



伏虎中便り No. 5

平成26年9月4日

(伏虎中便りは、中学校HPにも掲載しています。)

2学期が始まりました。 秋の気配も感じられる季節となってきました。学校も勉強や諸活動を充実させる実りの学期を迎えます。そして、生徒会活動や部活動では先輩から後輩へとバトンが引き継がれていきます。

2学期は、3年生にとっては友達や仲間とともに中学校生活を最高に充実させるとき、2年生には学校の中心的な役割と責任を持ち始めるとき、そして1年生にとっては中学生としての自覚を確かなものにするときです。

すべての生徒が、勉強や活動にしっかりと取り組み、さらに大きく成長してくれることを期待しています。



伏虎中トピックス

- 8月31日(日)の吹奏楽部定期演奏会に多数ご来場いただき、ありがとうございました。(´0`)
- 校舎内の壁がリフレッシュ： 夏休み中に校務員の國祐さんが塗ってくださいました。校舎は古くなっていますが、おかげで明るい雰囲気になりました。

避難訓練について

本校では毎年9月初めと3月中旬に防災教育を行っています。9月は避難訓練を行い、3月は防災教育ビデオを見て学習します。

今回の避難訓練は、大地震が発生し津波の危険があるという想定で、和歌山市学校地震速報受信システムの訓練用放送を活用して行いました。このシステムは昨年度に学校に導入されたもので、テレビやラジオ、防災無線などで流れる地震速報が学校のスピーカからも流れます。放送を聞いて、まず机の下に入り身の安全を確保した後、体育館に避難しました。ふざけたりする生徒もなく、整然と行動できたと思います。

生徒に指導した主な内容としては、落下物や倒壊物、ガラス飛散などの危険から身を守るため机の下に入ったりカバンを頭部にあてたりして安全を確保することや、安全に避難するために狭い通路や階段を通るときは「おさない・はしらない・しゃべらない」の「お・は・し」を守ることを話しました。

それに付け加えて今回は、和歌山県作成の資料

『わたしは逃げるよ！だから家族で決めた避難場所でおうね！！』と、携帯用避難カードを生徒に配りました。

親が外出中のとき、子どもが遊びや習い事に出ているときなど、家族が一緒にいないときに大きな災害が襲ってきたらどうしますか？

「うちの子どもはどうしているだろうか？」と心配して危険な場所に戻り被害にあった親、「きっとお母さんが迎えにきてくれる」と家に留まり避難が遅れてしまった子ども。大きな災害が起こるたびにこのような痛ましい報告を聞きます。

これまで何度も津波被害にあってきた東北地方には「津波てんでんこ」という言葉があり、一人ひとりが「てんでバラバラに逃げる」ことの大切さが語り継がれています。

「僕は一人でもちゃんと〇〇に逃げるから安心して」、「私は家には戻らないから自分で逃げるんだよ」、「落ち着いたら△△でおうね」などと家族で話し合っておくと、家族がお互いの行動を信じあい、ためらわずに避難することができます。

この機会に、いざという時に備え避難について家族で話し合ってみてください。

